

適正な土壌管理で放射性セシウムの 吸収抑制を図りましょう！



厚生労働省審議会において、「一般食品に含まれる放射性セシウムの新たな基準値は1キログラム当たり100ベクレル」とする案が了承されました。

新基準値は4月から適用される予定ですので、今までよりも一層の注意が必要となります。

施肥管理の違いによって放射性セシウムの吸収量が異なりますので、土壌診断に基づく施肥などの土壌管理を適切に行い、安全な農産物の生産に努めましょう。

3つのポイント

放射性物質を作物に吸わせない！

- セシウムと化学的性状が似ているカリウムは、放射性セシウムの吸収を抑える効果が期待できますので、加里肥料を適正に施用してください。
- pHが低いと放射性セシウムが吸収されやすくなりますので、土壌pH6～6.5を目標に石灰資材などを施用して土壌のpHを上げてください。
- 土壌診断を行って適正施肥に心掛けましょう。

土壌中の放射性物質濃度を低くする！

- ロータリーによる深耕やプラウによる反転耕を行って、土壌中の放射性セシウム濃度を低くすることで、作物への吸収を抑える効果が期待できます。
- 30cmを目標としますが、作業機やほ場条件によって耕深確保が困難な場合も、できるだけ現状よりも深く耕してください。
- 深く耕すことによりやせた下層土が混和されるので、堆肥や土壌改良資材を適正に施用するなど、地力の向上に努めてください。

放射性物質を入れない・増やさない！

- 堆肥や土壌改良資材・培土は、放射性セシウムの暫定許容値(400Bq/kg)以下のものを適正量施用しましょう。
- 放射性セシウム濃度が確認されていない落ち葉・樹皮(バーク)・雑草等の利用(敷料・腐葉土等)は自粛してください。

<対策の手順と注意点>

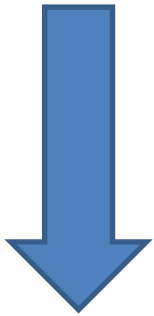
土壌中の放射性セシウム濃度を低くするため
ロータリーによる深耕やプラウでの反転耕を行いましょ！



注意点

深耕や反転耕は、やせた下層土を作土に混和させるので、堆肥や土壌改良資材（暫定許容値400Bq/kg以下）を適正に施用して地力を向上させる必要があります。30cm以内に軽石層が分布している地域では、軽石層を壊さないよう耕深を制限してください。

田畑の状況を確認するため土壌診断を行いましょ！



◇ カリウム含量が不足していないか？

土壌中の交換性加里が少ないと、放射性セシウムの吸収が増加します。土壌診断結果を基に、目標値は水稲で30～50mg/100g、畑作物で40～80mg/100g程度としましょ。

◇ 土壌のpHが低過ぎないか？

土壌pHの基準値は6～6.5を目標とし、これよりも低い場合には、石灰資材などの土壌改良資材を投入してください。

必要に応じて加里肥料と石灰資材を施用しましょ！

注意点

生育中にもカリウムが欠乏しないよう、必要に応じて加里肥料の追肥も必要ですが、一般に野菜畑等ではカリウムが過剰傾向にありますので、むやみな多用はカルシウム・マグネシウム欠乏を引き起こすおそれがあります。

pHがアルカリ性に傾くと微量元素の欠乏症が発生するおそれがありますので、石灰資材の施用量には注意しましょ。

作物毎の基本技術を励行しましょ！

相談窓口

中部農業事務所普及指導課 027-233-9255	洪川地区農業指導センター 0279-23-1321	伊勢崎地区農業指導センター 0270-25-1252	西部農業事務所普及指導課 027-321-3600
藤岡地区農業指導センター 0274-23-4555	富岡地区農業指導センター 0274-63-6711	吾妻農業事務所普及指導課 0279-75-2364	利根沼田農業事務所普及指導課 0278-23-0338
東部農業事務所普及指導課 0276-31-2212	桐生地区農業指導センター 0277-76-2047	館林地区農業指導センター 0276-74-2257	農政部技術支援課 027-226-3070